

JBL BAR 3.1

4K Ultra-HD対応3.1chホームシアターシステム

取扱説明書



安全上のご注意

- 使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠ 警告 この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意 この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

⚠ 警告

- ❶ 電源コードは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源コードを容易に引き抜くためです。
- ❷ 付属品以外の電源コードは使用しない。
火災の原因になることがあります。
- ❸ 付属品の電源コードを他の機器に転用しない。
火災の原因になることがあります。
- ❹ 船舶などの直流（DC）電源には接続しない。
火災の原因になります。
- ❺ 電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。
火災・感電の原因になります。
- ❻ 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になります。
- ❼ 電源コードが破損した場合（芯線の露出や断線など）には、販売店または弊社サービスセンターに交換（有償）を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- ❽ タコ足配線しない。
発熱により火災・感電の原因になります。
- ❾ テーブルタップ（延長コード）を使用しない。
発熱により火災・感電の原因になります。
- ❿ 雷が鳴りはじめたら、電源アダプタには触れない。
感電の原因になります。
- ⓫ 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きにしない。
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- ⓬ 煙が出る場合、異常なおいや音がする場合は、すぐに電源コードをコンセントから抜く。
煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社サービスセンターに修理を依頼してください。
- ⓭ 水道の蛇口付近や風呂場などの濡れている場所や水気の多い場所では使用しない。
火災・感電の原因になります。
- ⓮ 本機の内部に水などが入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社サービスセンターに点検を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- ⓯ 本機の内部に異物を入れない。
万一、本機の内部に異物が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社サービスセンターに点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ⓰ アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。
引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明していません。

- ❶ 禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
- ❷ 分解してはいけないことを示す記号です。
- ❸ 濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
- ❹ 触れてはいけないことを示す記号です。
- ❺ 水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
- ❻ 指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
- ❼ 電源コードをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

⚠ 警告

- ❶ 分解や改造をしない。
感電の原因になります。
- ❷ 調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。
火災・感電の原因になることがあります。
- ❸ 直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。
キャビネットや内部回路に悪影響が生じ、火災の原因になることがあります。
- ❹ オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。
指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

⚠ 注意

- ❶ 濡れた手でコンセントを抜き差ししない。
感電の原因になります。
- ❷ 長期間本機を使用しないときは、電源コードをコンセントから抜く。
火災・感電の原因になります。
- ❸ 電源コードを抜くときは、電源コードを引っばらない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。
- ❹ 電源コードは、コンセントの根元まで確実に差し込む。
電源コードを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。
- ❺ ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。
- ❻ 不安定な場所や振動する場所に設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因となります。
- ❼ 移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
- ❽ 薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

電池についてのご注意

❗ 電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す。

漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。また電池の液が目に入ったたり体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因になります。

●液が漏れたとき

→漏れた液に触れないように注意しながら、直ちに火気より離してください。乾いた布などで電池ケースの周りをよくふいてください。

●液が目に入ったとき

→目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の診察を受けてください。

●液が体や衣服についたとき

→すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い流してください。

❗ 電池について以下のことに注意する。

本製品のリモコンはマンガン乾電池を使用しています。誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する恐れがあります。

●火の中に入れたり、加熱したりしないでください。また、直射日光のあたる場所、高温多湿の場所、車中等に放置しないでください。

●使用中、保管時等に発熱したり、異臭を発したり、変色、変形、その他今までと異なる場合は使うのを止めてください。

●電子レンジや高圧容器に入れないでください。

●水、海水、ジュースなどで濡らさないでください。

●強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

Bluetooth® に関するご注意

本機は、2.4GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、一般家庭でもいろいろな機器（電子レンジやコードレス電話など）で使用されています。

以下のような場所で本機を使用する場合、送信 / 受信ができなくなることがあります。

- 2.4GHzを利用する無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります。）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります。）
- テレビにノイズが出た場合、本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

⚠ 注意

- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機は、全てのBluetooth機器との接続動作を保証するものではありません。
- 弊社ではお客様の接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機内や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関などの指示に従ってください。

ご注意ください電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

電波法に基づく認証について

本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解 / 改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

機器認定について

本機は、電波法に基づく省電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律により罰せられることがあります。

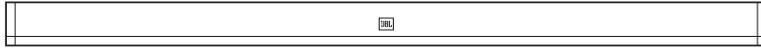
- 本機を分解 / 改造すること
- 本機に貼ってある、または刻印されている証明ラベルをはがしたり消したりすること

梱包内容の確認	6
各部の名称	8
<サウンドバー上面 / 前面>	8
<サウンドバー背面>	8
<サブウーファー背面>	8
<リモコン>	9
設置する	10
サウンドバーの設置	10
サブウーファーの設置	11
機器を接続する	12
テレビを接続する	12
ステレオミニジャック付きの機器を接続する	13
USB メモリーを接続する	13
HDMI 出力を持つビデオ機器を接続する	13
リモコンの準備と電源への接続	14
リモコンの準備をする	14
電源に接続する	14
操作のしかた	15
電源を入れる / 切る	15
サブウーファーとのペアリング	15
入力ソースを切り替える	15
表示部の明るさを切り替える	16
音量を調節する	16
音質を調節する	16
オーディオシンクロ機能を使う	17
Bluetooth 接続を行う	18
ペアリングを行う	18
Bluetooth 接続を解除するには	18
Bluetooth 再生を制御する	19
サウンドシフト機能を使う	19
USB メモリーなどの音源を聴く	20
再生を開始する	20
再生を制御する	21
シャッフル演奏 / リピート演奏する	21
テレビのリモコンを使う (HDMI 接続時)	22
テレビのリモコンで本機の制御を行わない場合	22
トラブルシューティング	23
お手入れ	23
主な仕様	24
USB ファイルの互換性 (再生可能フォーマット)	24
HARMAN Owners' Club	25
製品に関するお問い合わせ	25

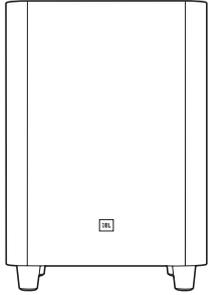
梱包内容の確認

本システムの梱包内容は、以下のとおりです。

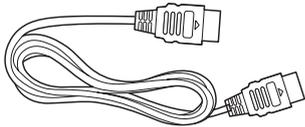
- サウンドバー本体



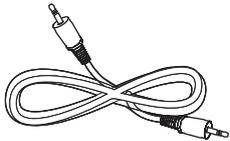
- ワイヤレスサブウーファー



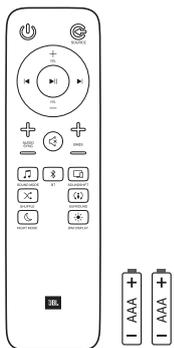
- HDMI ケーブル



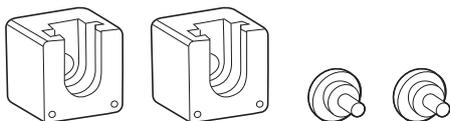
- 3.5mm ステレオミニプラグ付きオーディオケーブル



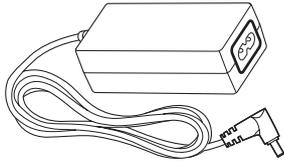
- リモコンとリモコン用乾電池（2本）



- ねじ穴位置決め台紙
- 壁掛けブラケット A / 壁掛けブラケット B



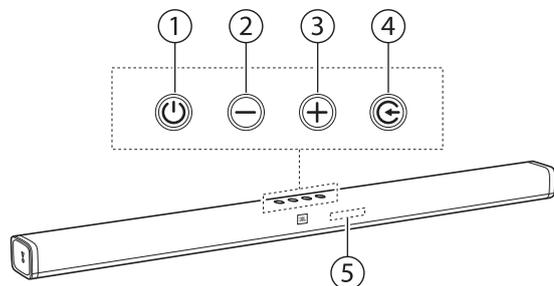
- ACアダプター



- 電源ケーブル（サウンドバー接続用およびワイヤレスサブウーファー接続用、計2本）
- 日本語取扱説明書（本書）
- 多言語取扱説明書
- 保証書（日本国内用）

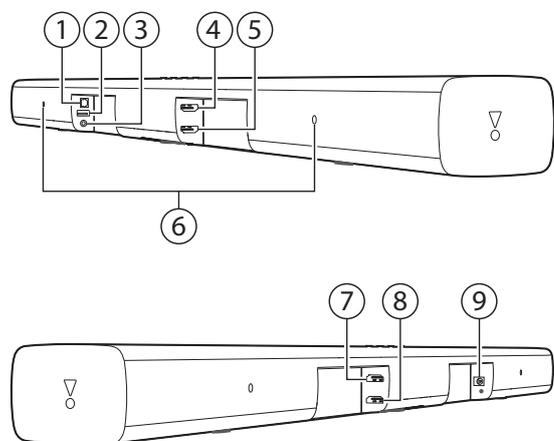
各部の名称

<サウンドバー上面 / 前面>



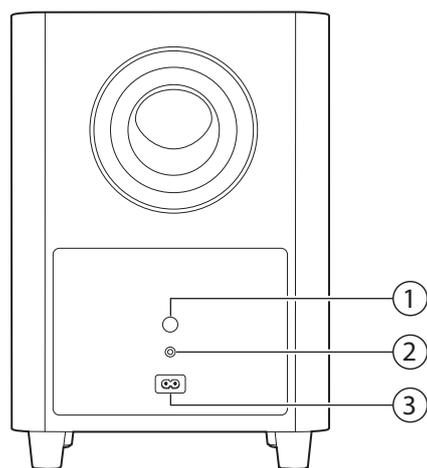
- ① 電源ボタン (⏻)
- ② 音量 **−** ボタン
- ③ 音量 **+** ボタン
- ④ 入力切り替えボタン (⌂)
- ⑤ 表示部

<サウンドバー背面>



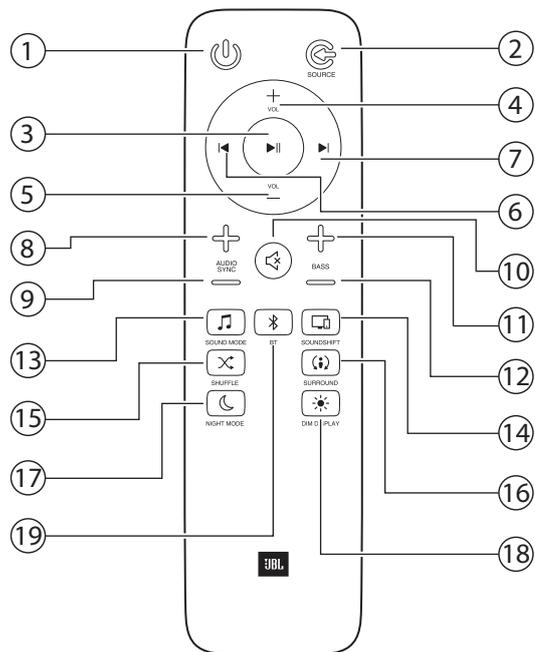
- ① OPTICAL-IN (光デジタル入力) 端子
- ② USB 端子
- ③ AUX-IN (オーディオ入力) 端子
- ④ HDMI 2 (HDMI 入力 2) 端子
- ⑤ HDMI 3 (HDMI 入力 3) 端子
- ⑥ 壁掛けブラケット B 用ねじ穴
- ⑦ HDMI OUT (ARC) 端子
- ⑧ HDMI 1 (HDMI 入力 1) 端子
- ⑨ POWER (電源) 端子

<サブウーファー背面>



- ① SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタン
- ② SW UPGRADE (ソフトウェア更新) 端子
- ③ AC IN (電源) 端子

<リモコン>



- ① 電源ボタン (🔌)
- ② 入力切り替えボタン (🔄)
- ③ 再生 / 一時停止ボタン (▶️||)
- ④ 音量 + ボタン
- ⑤ 音量 - ボタン
- ⑥ 戻るボタン (◀️)
- ⑦ 進むボタン (▶️)
- ⑧ AUDIO SYNC (オーディオシンクロ) + ボタン
- ⑨ AUDIO SYNC (オーディオシンクロ) - ボタン
- ⑩ ミュートボタン (🔇)
- ⑪ BASS (低音) + ボタン
- ⑫ BASS (低音) - ボタン
- ⑬ SOUND MODE (サウンドモード) ボタン (🎵)
- ⑭ SOUNDSHIFT (サウンドシフト) ボタン (🔊)
- ⑮ SHUFFLE (シャッフル) ボタン (🔀)
- ⑯ SURROUND (サラウンド) ボタン (🔊)
- ⑰ NIGHT MODE (夜間モード) ボタン (🌙)
- ⑱ DIM DISPLAY (表示部明るさ調整) ボタン (🌞)
- ⑲ BT (Bluetooth) ボタン (📶)

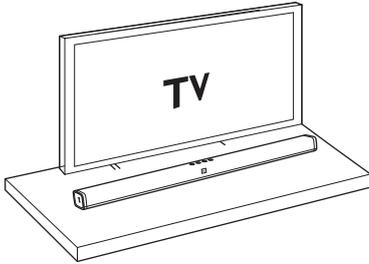
設置する

サウンドバーの設置

サウンドバーは、卓上に設置するか、壁に取り付けてお使いいただけます。

卓上に設置する

テレビの前など、音声を聴きやすい場所に設置します。



壁に取り付ける

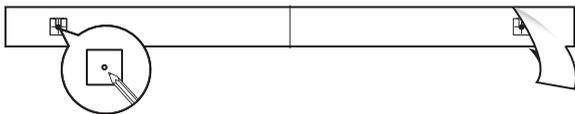
付属の壁掛けブラケットを使用して、サウンドバーを壁に取り付けることができます。

- 販売店や工事に依頼して、安全面に十分考慮しながら確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

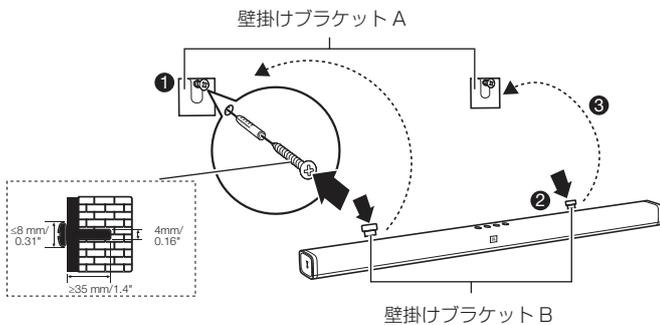
ご注意

- 壁取り付け用のねじは付属していません。壁の材質によっては破損する恐れがありますので、壁の材質や強度に合わせたねじを使用してください。
- ねじは、壁の裏にある柱や梁にしっかり取り付けてください。
- サウンドバーは、補強された壁に水平に取り付けてください。

- ① サウンドバーを取り付ける位置に付属のねじ穴位置決め台紙をセロハンテープなどで貼り付けます。
- ② 台紙のねじ穴位置を通してボールペンなどで壁にマークを付けます。



- ③ 壁掛けブラケット A を市販のねじ（直径 4mm、長さ 35mm 以上、ねじ頭直径 8mm 以下）を使ってマークした位置に取り付けます。
- ④ 壁掛けブラケット B をサウンドバーの壁掛けブラケット B 用ねじ穴にしっかり取り付け、壁掛けブラケット B が壁掛けブラケット A にフックするようにして壁に取り付けます。



サブウーファーの設置

サブウーファーを平らな床に設置します。故障や破損の原因になりますので、斜面や段差のある場所に設置しないでください。視聴する位置やサブウーファーの位置を変えながら実際にお試しになり、低音性能が最適になる場所に設置してください。

ご注意

サウンドバーとサブウーファーはワイヤレスで接続されます。サウンドバーとサブウーファーの間隔は 10m 以内にしてください。サウンドバーとサブウーファーの間に壁や障害物があると接続に問題が発生する場合がありますので、両者が見通せるように設置することをお勧めします。

機器を接続する

サウンドバーで、以下の音源の音を聴くことができます。

- テレビ
- 3.5mm ステレオミニジャックを持つオーディオ機器やスマートホンなど
- USB メモリーなど
- Bluetooth 対応デバイス

また、サラウンドバーとテレビで、以下の機器の映像と音声を視聴することができます。

- HDMI 出力を持つビデオ機器

それぞれ、以下のように接続します。

(Bluetooth 対応デバイスの再生音を聴くには、デバイスとのペアリングが必要です。「Bluetooth 接続を行う」をご覧ください。)

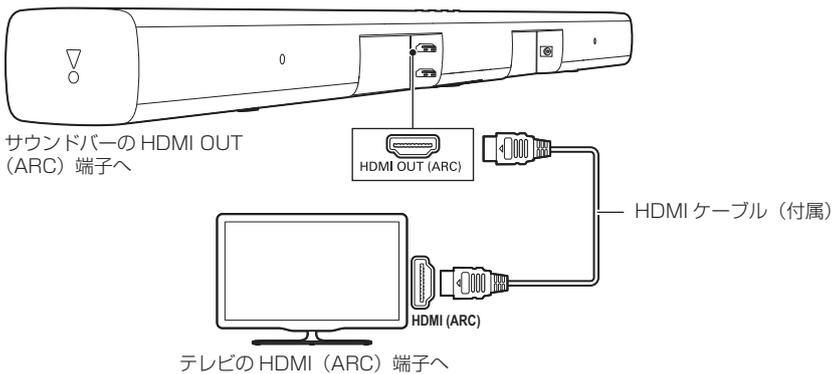
テレビを接続する

HDMI ケーブルを使った接続

テレビとサウンドバーは、付属の HDMI ケーブルを使用して接続することをお勧めします。

テレビの HDMI (ARC) 端子とサウンドバーの HDMI OUT (ARC) 端子を接続します。

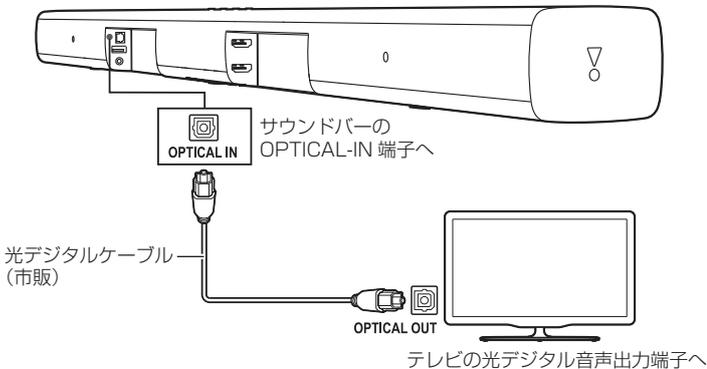
※必ず、テレビの HDMI (ARC) 端子をお使いください。ARC 対応ではない HDMI 端子と接続しても、テレビの音声をサウンドバーで聴くことはできません。その場合は、市販の光デジタルケーブル、もしくはアナログケーブル（付属の 3.5mm ステレオミニプラグ付きオーディオケーブル）でテレビと接続してください。



光デジタルケーブルを使った接続

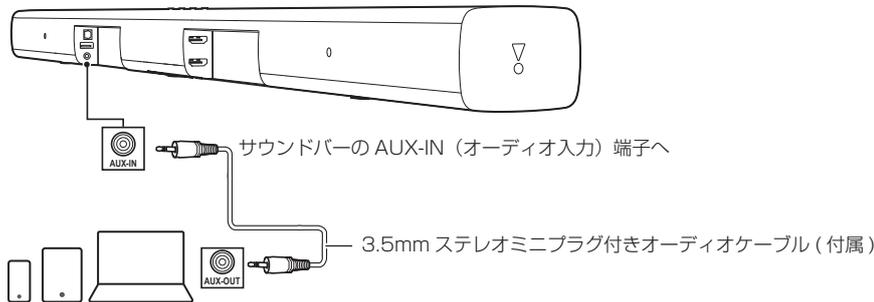
市販の光デジタルケーブルを使って、テレビの光デジタル音声出力端子とサウンドバーの OPTICAL-IN (光デジタル入力) 端子を接続します。

※ 光デジタルケーブルは、端子の形状が角型 (TosLink) のものをお求めください。



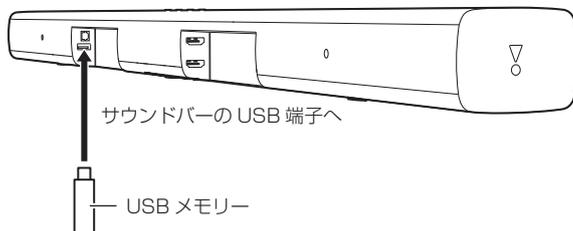
ステレオミニジャック付きの機器を接続する

付属の 3.5mm ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを使って、オーディオ機器やスマートホンなどの音声出力端子とサウンドバーの AUX-IN（オーディオ入力）端子を接続します。



USB メモリーを接続する

音楽ファイルなど、再生したいデータを保存した USB メモリーをサウンドバーの USB 端子に接続します。



本機で再生音を聴くことのできる USB メモリーは、以下のとおりです。

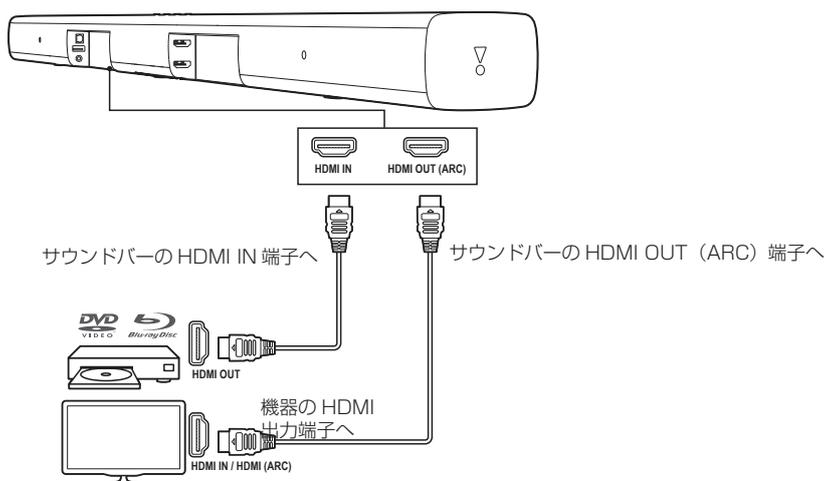
- USB フラッシュドライブ：USB2.0 に対応した USB メモリー、MP3 プレーヤーなど上記に相当しても、本機に対応していない場合があります。

HDMI 出力を持つビデオ機器を接続する

DVD プレーヤーやブルーレイプレーヤー、ゲーム機などの HDMI 出力端子をサウンドバーの HDMI 1（HDMI 入力 1）端子、HDMI 2（HDMI 入力 2）端子または HDMI 3（HDMI 入力 3）端子に接続します。また、サウンドバーの HDMI OUT（ARC）端子をテレビの HDMI（ARC）端子または HDMI IN 端子に接続します。

HDMI ケーブルが 2 本必要になりますので、付属の HDMI ケーブルとともに市販の HDMI ケーブルをお使いください。

この接続により、ビデオ機器の映像をテレビで、音声をサウンドバーで視聴することができます。



テレビの HDMI IN または HDMI OUT（ARC）端子へ

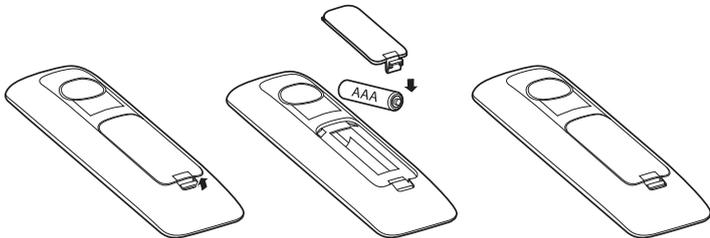
ビデオ機器の音声をサウンドバーで聴くには、サウンドバーの入力ソースとして、機器を接続した HDMI 端子（HDMI 1 / HDMI 2 / HDMI 3）を正しく選択する必要があります。「入力ソースを切り替える」をご覧ください。

リモコンの準備と電源への接続

リモコンの準備をする

付属のリモコンに、付属の単 4 形乾電池 2 個を入れます。

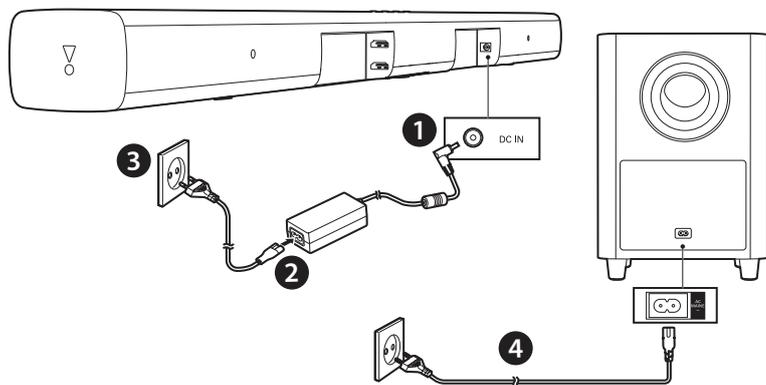
電池蓋を開け、乾電池の極性 (+ / -) を間違えないように入れてください。



電源に接続する

サウンドバーは、付属の AC アダプターと電源ケーブルを使って壁面のコンセントに接続します。

サブウーファーは、付属の電源ケーブルを使ってコンセントに接続します。



- ① 付属の AC アダプターをサウンドバーの POWER (電源) 端子に接続します。
- ② 付属の電源ケーブルを AC アダプターに接続します。
- ③ 電源ケーブルをコンセントに接続します。
- ④ 付属の電源ケーブルを、サブウーファーの AC IN (電源) 端子に接続し、続いてコンセントに接続します。

操作のしかた

電源を入れる / 切る

自動電源オン機能

サウンドバーは、電源オフであっても、何らかの音声信号を入力すると自動的に電源オンになります。

電源のオン / オフは、以下のように操作して切り替えることもできます。

電源を入れる

① リモコンまたはサウンドバーの電源ボタン (⏻) を押します。

サウンドバーの表示部に約 2 秒間 [ON] と表示されます。続いて前回電源を切る直前に選ばれていた入力ソースの名称 (お買い上げ時は [ARC]) が約 10 秒間表示された後、消えます。

電源を切る

① リモコンまたはサウンドバーの電源ボタン (⏻) を押します。

表示部に約 5 秒間 [STDBY] (スタンバイ) と表示された後、消えます。

自動スタンバイモードについて

本機の電源がオンのとき、約 10 分以上音声入力がなく操作も行われない状態が続くと、自動的にスタンバイモードになります。

サブウーファーとのペアリング

サウンドバーとサブウーファーは、ワイヤレスで接続します。

このワイヤレス接続を「ペアリング」と呼びます。

サブウーファーを電源に接続し、サウンドバーの電源を入れると、サブウーファーとサウンドバーは自動的にペアリングし、サブウーファー背面の SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタンが点灯します。

サウンドバーとサブウーファーのペアリングが正しく行われなかった場合、サブウーファーから低音が聴こえなくなります。このとき、SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタンはゆっくり点滅します。

以下のように操作して、ペアリングを実行してください。

① SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタンを押します。

ペアリングモードに入り、ボタンが速く点滅します。

② リモコンの DIM DISPLAY (表示部明るさ調整) ボタン (☀️) を 5 秒間押し続けた後、BASS (低音) **+**、BASS (低音) **-** の順に押します。

表示部に [PAIRING] (ペアリング) と表示され (右から左にスクロール)、ペアリングが行われると SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタンが点灯し、表示部に [CONNECTED] (接続完了) と表示されます (右から左にスクロール)。それでもペアリングが正しく行われなときは、上記の操作を何度か繰り返してください。

入力ソースを切り替える

① 聴きたい音源の名称が表示部に表示されるまで、リモコンまたはサウンドバーの入力切り替えボタン (⏮) を押します。

音源	表示
HDMI OUT (ARC) 端子に接続したテレビ	ARC
HDMI 1 端子に接続したビデオ機器など	HDMI1
HDMI 2 端子に接続したビデオ機器など	HDMI2
HDMI 3 端子に接続したビデオ機器など	HDMI3
OPTICAL-IN 端子に接続したテレビ	OPT
AUX-IN 端子に接続したオーディオ機器	AUX
Bluetooth 対応デバイス *1	BT
USB 端子に接続した USB メモリーなど *2	USB

*1 : Bluetooth 対応デバイスの音声を聴くには、最初にペアリングの操作が必要です。「Bluetooth 接続を行う」をご覧ください。

*2 : USB メモリーなどのデバイスが接続されていないと、表示部に [PLUG IN USB] (USB を接続してください) と表示されます (右から左へスクロール)。

HDMI 出力を持つビデオ機器を接続しているとき

入力ソースとして、ビデオ機器を接続した HDMI 端子 (HDMI 1 / HDMI 2 / HDIM 3) を選択すると、サウンドバーからビデオ機器の音声が聴こえます。

ビデオ機器の映像をテレビで見るために、テレビ側でビデオ機器からの入力 (HDMI IN または HDMI (ARC)) を選択してください。

AUX-IN 端子に接続した機器を再生するとき

本機で再生を制御することはできません。

一時停止や曲の頭出し (次へ / 前へ) などの操作は、接続した機器側で行ってください。

表示部の明るさを切り替える

部屋の明るさなどに応じて、サウンドバー表示部の明るさを 3 段階に切り替えることができます。

① リモコンの DIM DISPLSY (表示部明るさ調整) ボタン (☀️) を繰り返し押しして希望の明るさに設定します。

[DIM1] : 明るい

[DIM2] : 中間の明るさ

[DIM3] : 暗い

音量を調節する

音量を上げる / 下げる

① リモコンまたはサウンドバーの音量 **+** / **-** ボタンを押します。

表示部の表示は、無音の状態から音量を上げていくごとに [00] → [01] → … → [47] → [M] (最大) と切り替わります。

音量をミュートする

① リモコンのミュートボタン (🔇) を押します。

表示部に [MUTE] (ミュート) と表示されます。

ミュートを解除するには、もう一度ミュートボタンを押します。

音質を調節する

低音を強調する

サブウーファーからの低音を弱めたり、強めたりすることができます。

① リモコンの BASS (低音) **+** / **-** ボタンを押します。

表示部の表示は、低音が最も弱い状態から低音を強調していくごとに [BAS00] → [BAS01] → … → [BAS30] と切り替わります。

サラウンド効果をオン / オフする

① リモコンの SURROUND (サラウンド) ボタン (🔊) を押します。

押すごとにサラウンド効果のオン / オフが切り替わります。

表示部には、[ON SURROUND] (サラウンドオン) または [OFF SURROUND] (サラウンドオフ) が表示されます (右から左にスクロール)。

夜間モードのオン / オフを切り替える

夜間モードをオンにすると、夜間、音量を下げたときに音楽が聴きやすいよう、低音域と高音域を調節します。

夜間モードは、音源が Dolby Digital の場合のみオンに切り替えることができます。

① リモコンの NIGHT MODE (夜間モード) ボタン (🌙) を押します。

押すごとに夜間モードのオン / オフが切り替わります。

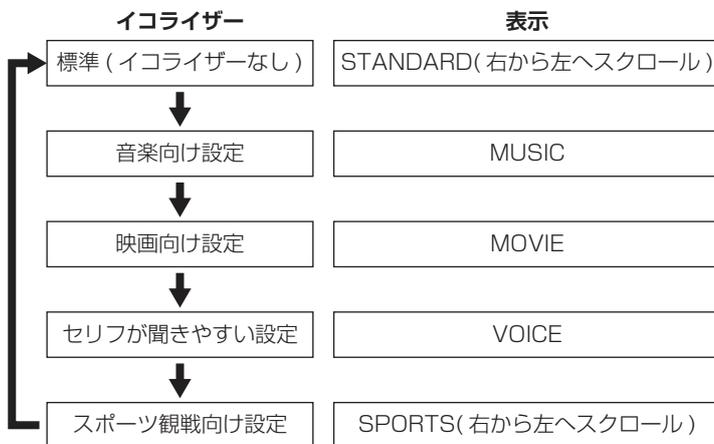
表示部には、[NIGHT OFF] (夜間モードオフ) または [NIGHT ON] (夜間モードオン) が表示されます (右から左にスクロール)。

サウンドモードを切り替える

聴く音声の種類に適切なイコライザー設定に切り替えることができます。

① リモコンの SOUND MODE (サウンドモード) ボタン (🎵) を繰り返し押します。

押すごとに、イコライザーが以下の順に切り替わります。表示部には、イコライザーの名称が表示されます。



音質に関する設定をリセットする

リモコンの SOUND MODE (サウンドモード) ボタン (🎵) を 5 秒以上長押しすると、サウンドバーの音量や音質に関する設定はすべてお買い上げいただいたときの状態にリセットされます。

表示部には、[SOUND RESET] (サウンドリセット) が表示されます (右から左へスクロール)。

オーディオシンクロ機能を使う

視聴中の映像と音声合わない (人物の口の動きと声合わない、など) 場合、サウンドバーからの音声出力の時間を 10 ミリ秒単位で 0 ミリ秒 ~ 250 ミリ秒の範囲で遅らせることができます。

① リモコンの AUDIO SYNC (オーディオシンクロ) **+**/**-** ボタンを押します。

表示部の表示は、[000MS] (0 ミリ秒) ~ [250MS] (250 ミリ秒) の範囲で切り替わります。

Bluetooth 接続を行う

Bluetooth 対応デバイスの音声をサウンドバーでワイヤレス再生するには、はじめにサウンドバーと Bluetooth 対応デバイスを認識させる「ペアリング」が必要となります。

ペアリングを行う

以下の手順は一例です。詳細については、接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

- ① サウンドバーの電源を入れます。
- ② リモコンの BT (Bluetooth) ボタン (✳) を押します。
表示部に、[BT] (Bluetooth) に続き [PAIRING] (ペアリング) と表示 (右から左へスクロール) され、ペアリング設定状態になります。([BT] が消えた場合は、もう一度 BT (Bluetooth) ボタンを押してください。)
- ③ デバイス側でペアリング操作を行い、登録 / 接続します。
ペアリングが完了すると電子音が鳴り、[CONNECTED] (接続完了) と表示 (右から左へスクロール) されます。

iPhone/iPod/iPad の場合

- ① iPhone/iPod/iPad をペアリング設定状態にします。
「設定」→「Bluetooth」の順にタップした後、「Bluetooth」を「オフ」から「オン」にします。
Bluetooth に接続できるデバイスの一覧が表示されます。
- ② デバイス一覧から、「JBL Bar 3.1」を選択します。
接続が完了すると、デバイス上で「接続済み」と表示されます。



その他のデバイスの場合

- ① ペアリング設定状態にします。
接続するデバイス側で、本機を検出可能な状態にします。お使いのデバイスの取扱説明書も併せてご覧ください。
(パスキーが必要な場合は「0000」と入力します。)
一部のデバイスでは、接続を確認するメッセージが表示されます。
電子音が鳴り、[CONNECTED] (接続完了) と表示 (右から左へスクロール) されると、ペアリングは完了です。

本機は一度ペアリングを行ったデバイスの情報を記憶していますので、ペアリングを行ったあとは、本機の電源を入れ、接続したいデバイスの Bluetooth をオンにするだけで Bluetooth 接続することができます。

ご注意

Bluetooth は約 10m までの距離で接続できますが、障害物 (人体、金属、壁など) や電波状態によって接続有効範囲は変動します。

Bluetooth 接続を解除するには

デバイス側で Bluetooth を「オフ」にし、接続を解除します。
あるいは、デバイス側で「JBL Bar 3.1」の接続登録を解除してください。

Bluetooth 再生を制御する

Bluetooth 対応デバイスの音声の再生を、本機のリモコンで制御することができます。

押すボタン	再生の制御
再生 / 一時停止ボタン (▶)	再生中の曲の一時停止 / 一時停止の解除。
進むボタン (▶)	次の曲の先頭へ進む。
戻るボタン (◀)	現在の曲の先頭に戻る (さらに続けて押すと、前の曲の先頭に戻る)。

Bluetooth 対応デバイス側で制御することもできます。

サウンドシフト機能を使う

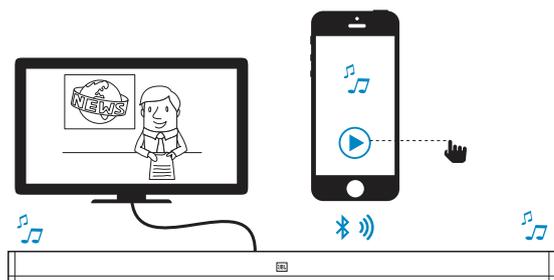
本機のサウンドシフト機能を使って、Bluetooth 再生とその前に聴いていたソースの再生 (テレビの音声など) をワンタッチで切り替えることができます。

① リモコンの SOUNDSHIFT (サウンドシフト) ボタン (📺) を押します。

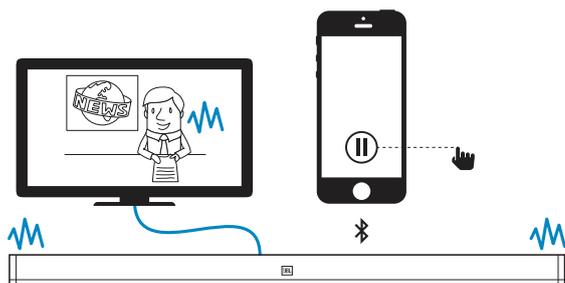
押すごとに、サウンドシフト機能のオン / オフが切り替わります。

表示部には、[ON SOUNDSHIFT] (サウンドシフトオン) または [OFF SOUNDSHIFT] (サウンドシフトオフ) が表示されます (右から左へスクロール)。

サウンドシフト機能がオンのときは、Bluetooth 対応デバイスで再生を始めるとサウンドバーからは Bluetooth デバイスの音声が聴こえます。



Bluetooth 対応デバイスで再生を一時停止すると、サウンドバーからは直前に聴いていた音声が聴こえます。



USB メモリーなどの音源を聴く

サウンドバーの USB 端子に接続した USB メモリーなどの音源の再生音を聴くには、以下のように操作します。

使用する USB メモリーなどのデバイスが、「機器を接続する」の「USB メモリーを接続する」に記載されている条件を満たしていることをご確認ください。

また、以下の制限事項がありますので、あらかじめご承知おきください。

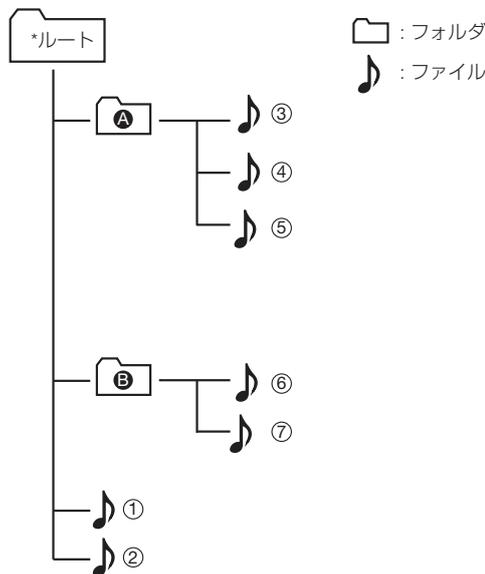
- 曲のファイル名は英数字のものに限られます。それ以外の文字（漢字やかななど）、記号が含まれていると、再生されない場合があります。
- 15 字を超えるファイル名は、サウンドバーの表示部に表示されません。
- 曲の再生中に USB メモリーを抜き取らないでください。誤動作の原因になります。
- 著作権保護のかかった音楽ファイル（ウェブからダウンロードした MP3 ファイルや WMA ファイルなど）は、再生することができません。
- PC に何らかのアプリをインストールしないと再生することができない USB メモリーは、本機で再生することはできません。
- 大容量の USB メモリーは、USB 端子に接続してもサウンドバーが認識するまで数分かかることがあります。なお、保存されたファイル数が 2000 を超えている場合、再生することはできません。
- USB 端子に PC を接続して、サウンドバーを PC の外部ストレージデバイスとして利用することはできません。
- 本機がサポートしているファイルシステムは FAT16 および FAT32 です。exFAT、NTFS はサポートしていません。
- USB メモリー以外の USB デバイスのうち、HDD やカードリーダー、ロックがかかったデバイス、USB ハブを介したデバイス、USB 延長ケーブルを介したデバイス、iPhone/iPod/iPad、アンドロイド端末は本機で認識されない場合があります。

再生を開始する

再生される曲の順番

ルートディレクトリの曲がファイル名のアルファベット順にしたがって再生された後、ルートディレクトリの下フォルダがアルファベット順に選ばれ、その中の曲がアルファベット順に再生されます。

以下のファイル構成の場合、曲は①～⑦の順に再生されます。



- ① USB メモリーにロックがかかっている場合は、ロックを解除します。
- ② USB メモリーをサウンドバーの USB 端子に接続します。
- ③ リモコンまたはサウンドバーの入力切り替えボタン (⏪) を押して USB を選択します。

接続した USB メモリーが認識されると表示部に [LOADING] (ロード中) と表示 (右から左へスクロール) され、自動的に再生が始まります。

再生を制御する

USB メモリーなどの音源の再生を、本機のリモコンで制御することができます。

押すボタン	再生の制御と表示
再生 / 一時停止ボタン (▶)	再生中の曲の一時停止 / 一時停止の解除。 表示部には、[PAUSE] (一時停止) / [PLAY] (再生) と表示されます。
進むボタン (▶)	次の曲の先頭へ進む。 表示部には、再生される曲のトラック名が表示されます。
戻るボタン (◀)	現在の曲の先頭に戻る (さらに続けて押すと、前の曲の先頭に戻る)。 表示部には、再生される曲のトラック名が表示されます。

シャッフル演奏 / リピート演奏する

① リモコンの SHUFFLE (シャッフル) ボタン (X) を押します。

押すごとに通常演奏→シャッフル演奏→1 曲リピート演奏→全曲リピート演奏の順に切り替わります。

表示部の表示は以下のとおりです。

通常演奏：[OFF]

シャッフル演奏：[SHUFFLE] (右から左へスクロール)

1 曲リピート演奏：[ONE]

全曲リピート演奏：[ALL]

テレビのリモコンを使う（HDMI 接続時）

テレビとサウンドバーを HDMI ケーブルで接続している場合、ほとんどのテレビのリモコンで以下の操作ができます。

- サウンドバーの電源のオン / オフ
- サウンドバーの音量調節
- サウンドバーの音量ミュート

テレビのリモコンで本機の制御を行わない場合

テレビのリモコンによるサウンドバーの制御が不要な場合は、リモコンの SHUFFLE（シャッフル）ボタン（) を 3 秒以上押し続けます。

トラブルシューティング

本機が正しく動作しない場合、修理をご依頼される前に、以下の点をご確認ください。

症状	解決法
サウンドバーの電源が入らない。	サウンドバーが壁のコンセントに接続されているかご確認ください。
サウンドバーから音が聴こえない。	サウンドバーの音量が小さすぎているか、あるいはミュートされていないかご確認ください。
	入力ソースとして、聴きたい音源が選ばれているかご確認ください。
	聴きたい音源の機器がサウンドバーと正しく接続されているかご確認ください。
	テレビとサウンドバーを HDMI ケーブルで接続している場合、テレビの HDMI (ARC) 端子に接続しているかご確認ください。
	ビデオ機器とサウンドバーを HDMI ケーブルで接続している場合、サウンドバーの HDMI 1 / HDMI 2 / HDMI 3 端子のいずれかに接続しているかご確認ください。
音源側で音量調節ができる場合、音量が小さすぎているかご確認ください。	
音が歪む。	音量が上がり過ぎている場合は音量を下げてください。
音質が望むように調節できなかった。	リモコンの SOUND MODE (サウンドモード) ボタン (🎵) を 5 秒以上長押しして音質の設定をリセットし、もういちど音質を調節してください。
サブウーファーから音が聴こえない。	サブウーファー背面の SUBWOOFER PAIRING (サブウーファーペアリング) ボタンが点灯しているかご確認ください。ボタンが点滅している場合は、サウンドバーとのペアリングを行ってください。
映像と音声の間にずれがある。	オーディオシンクロ機能を使ってずれを調節してください。
表示部に [ERROR] (エラー) と表示され、音が聴こえない。	入力した音声信号は、本機でサポートされていません。別の入力ソースに切り替えてください。
Bluetooth デバイスとペアリングできない。	お手持ちの Bluetooth デバイスが本機と対応しているかどうかご確認ください。
	別の機器と Bluetooth 接続していないかどうかご確認ください。本機は一度ペアリングを行った機器の情報を記憶しています。音楽を再生したい機器を再接続する場合は、近くのペアリングされている Bluetooth デバイスをすべてオフにし、本機の電源を入れ直してください。
リモコンで操作できない。	リモコンの乾電池が消耗していないかご確認ください。
	リモコンをサウンドバーに近づけて操作してください。

お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を薄めた液を少し含ませた布でふき、その後乾いた布でふき取ってください。

主な仕様

音声入力	アナログ x 1、光デジタル x 1、Bluetooth、USB
HDMI ビデオ入力	3
HDMI (ARC)	1
最大出力	総合 450W
サウンドバー最大出力	150W
サブウーファー最大出力	300W
サウンドバー消費電力	0.5W 以下 (スタンバイ時)
サブウーファー消費電力	0.5W 以下 (スタンバイ時)
音圧レベル	最大 103dB
周波数特性	35Hz ~ 20kHz
Bluetooth	バージョン : Bluetooth4.2
Bluetooth 伝送範囲	Class2、通信距離約 10m (障害がない場合)
サイズ	サウンドバー : 幅 1018 x 高さ 58 x 奥行き 78mm サブウーファー : 幅 305 x 高さ 440 x 奥行き 305mm`
質量	サウンドバー : 2.3kg サブウーファー : 12.1kg

USB ファイルの互換性 (再生可能フォーマット)

拡張子	コーデック	サンプリング周波数	ビットレート
.mp3	MPEG 1 Layer2	16kHz ~ 48kHz	80kbps ~ 320kbps
	MPEG 1 Layer3	16kHz ~ 48kHz	80kbps ~ 320kbps
	MPEG 2 Layer3	16kHz ~ 48kHz	80kbps ~ 320kbps
	MPEG 2.5 Layer3	16kHz ~ 48kHz	80kbps ~ 320kbps
.wav	—	16kHz ~ 48kHz	3000kbps まで

HARMAN Owners' Club

この度は JBL 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。HARMAN Owners' Club (ハーマンオーナーズクラブ) は、ハーマンインターナショナル取り扱い製品ご愛用者のための会員プログラムです。

会員様に向けたさまざまな特典やサービスをお届けします。

<https://www.harman-ownersclub.jp>

このアドレスからアクセスしてください。

携帯電話（フィーチャーホン）からはご登録できませんのでご注意ください。

製品に関するお問い合わせ

<http://jbl.harman-japan.co.jp/support/>

メールでのお問い合わせは、上記 URL よりお問い合わせフォームをご利用ください。

Tel : 0570-550-465 (ナビダイヤル)

受付時間 : 土日・祝日・年末年始を除く、平日 9:30 ~ 17:30

 **Bluetooth®**

- Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
- Harman International Industries, Incorporated は、これら商標を使用する許可を受けています。
- iPod および iPad は、米国およびその他の国々登録された Apple Inc. の商標です。
- Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。



© 2018 Harman International Japan Co., Ltd. All rights reserved.

XXXXXXXX

